

No	感染症(PT)	出典	概要
187	エルシニア感染	Tidsskr Nor Laegeforen 2007; 127: 586-589	2006年にノルウェーで発生したエルシニア症アウトブレイクにおいて、Yersinia enterocolitica血清型O:9が分離された11例の患者について、レトロスペクティブな研究を行った。患者11例のうち9例が腸炎を有し、2例は敗血症で死亡した。11例中10例がブタの頭から作られたピクルスを食べていたことから、感染源はピクルスと推定されたが、感染源は証明できなかった。
188	クロストリジウム感染	asahi.com 2007年2月23日	千葉県内で昨年2月、58歳の男性が、主に牛の病気の原因とされる「気腫疽菌」に感染し、死亡していたことが22日、国立感染症研究所などの調べでわかった。人への感染が報告されたのは世界初である。感染経路は不明だが、けがをした胸から菌が侵入した可能性があるという。通常の検査ではほかの菌と区別しにくいと、国内でも実態を調べる必要があるとのことである。
189	クロストリジウム感染	Eurosurveillance 2007; 12(1): 070111	偽膜性大腸炎の患者からClostridium difficileの変異株が日本で初めて分離された。この株はNAP1、PCR ribotype 027、toxintype IIIであった。この株は以前、カナダ、米国、オランダ、英国、フランス、ベルギーにおけるアウトブレイクの原因として報告されている。
190	クロストリジウム感染	YAHOO ニュース (2007年2月22日 読売新聞)	千葉県の船橋市立医療センターは22日、同県内の50歳代の男性が、主に牛の病気の原因とされる「気腫疽菌」に感染し、死亡したことを明らかにした。人への感染が報告されたのは世界初である。気腫疽菌は傷口などから動物の体内に入り、筋肉が壊死する「気腫疽」を発症させる。同センターは、「気腫疽菌は人には感染しないというのがこれまでの常識だった。詳しい感染経路を調べるのが今後の課題」としている。
191	クロストリジウム感染	YOMIURI ONLINE (2007年2月22日 読売新聞)	千葉県の船橋市立医療センターは22日、同県内の50歳代の男性が、主に牛の病気の原因とされる「気腫疽菌」に感染し、死亡したことを明らかにした。人への感染が報告されたのは世界初である。気腫疽菌は傷口などから動物の体内に入り、筋肉が壊死する「気腫疽」を発症させる。同センターは、「気腫疽菌は人には感染しないというのがこれまでの常識だった。詳しい感染経路を調べるのが今後の課題」としている。
192	クロストリジウム感染	イザ(産経新聞) 2007年2月23日	千葉県の船橋市立医療センターは22日、2006年2月に搬送され、死亡した同県内の50歳代の男性から気腫疽菌が検出されたと2007年2月22日に発表した。人への感染が報告されたのは初めてである。
193	クロストリジウム感染	共同通信 2007年2月22日	千葉県の船橋市立医療センターは22日、昨年2月に搬送され死亡した50歳代男性から、牛や羊などに高熱などの激しい症状を引き起こして死亡させる「気腫疽菌」が検出されたと発表した。この菌は土の中に多く生息するが、人への感染が確認されたのははじめてとのことである。
194	クロストリジウム感染	第37回日本嫌気性菌感染症研究会・講演抄録集 2007年3月3日	58歳男性で受傷1日前より発熱、鼻汁、咳そう出現し、受傷当日39度台の発熱があった。土木作業中に鉄パイプで右前、側胸部を打撲し、翌朝打撲部の腫脹出現、疼痛増悪。肋骨2本のひびが確認された。同夜、劇症型ガス壊疽症状を呈し、死亡した。死亡直前の皮下気腫穿刺液から偏性嫌気性有芽胞グラム陽性桿菌が検出され、Clostridium chauvoeiと同定された。C chauvoeiは獣医学領域の病原菌としてよく知られているが、ヒトへの感染が報告されたのは初めてである。
195	コレラ	ProMED-mail20061128.3377	2006年10月の中国全土でのコレラ発生数は22例、死亡数0例であった。輸入症例であったか否かなど、これ以外の情報は無い。
196	コレラ	ProMED-mail20070810.2603	香港Centre for Health Protectionはコレラの輸入症例(2007年8月2日にHong Kongへ帰国した30才男性)を確認した。この男性は7月4日から8月1日にインドへ旅行し、8月1日に腹部けいれんおよび下痢を発症した。検査でVibrio cholerae O1 El Tor Ogawa陽性であった。これは2007年に報告された初めてのコレラ症例である。
197	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail20070621.2009	ロシアStavropol地方におけるクリミアコンゴ出血熱(CCHF)が2006年よりも2倍高い発生率を示している。2007年6月13日現在、Stavropol地方の12地域でCCHFと認定された23症例において、73%は動物との接触を介した感染であり、27%は自然界での感染であった。16例はダニによる咬傷を受け、5例は保護していない手でダニを取り除いていた。同地域では165名の入院患者がCCHFであると予備的に診断された。ダニに咬まれた小児の数が増加していることから、当局はダニ対策の重要性を強調している。